

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092600129		
法人名	有限会社 たじま		
事業所名	グループホーム つつじ苑		
所在地	群馬県吾妻郡中之条町大字中之条町1771-2		
自己評価作成日	平成28年10月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	tajima.h@crest.ocn.ne.jp
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県高崎市八千代町三丁目9番8号		
訪問調査日	平成28年11月14日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>お年寄りのために、地域に根差した介護をし、地域社会に貢献する。 生活への不安を解消し、質の高いサービスを提供する。 安心して生活が送れるよう、より良い環境づくりをする。 地域密着での心からの介護サービスができるよう取り組んでいく。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>系列の地域密着型サービス事業所の長年の運営から、グループホームの特性を理解した運営がなされているところがある。開設当初から玄関はチャイムで対応している等、カギは開錠されており、利用者の自由な生活が確保されている。また、各居室は排泄用品が他の利用者や来客等の人の目に触れないところにしまわれ工夫がなされており、利用者の尊厳が保たれている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の評価、ミーティングの際、理念に添って実践されているかどうか検討しています。	月に1度法人の院長先生の話があり、職員にサービスの意義の指導をしている。また、毎朝申し送り時に話し合いを行っている。	事業所独自の理念を職員はまだ意識していない部分があり、共有し日頃の支援に繋げるところまでには至っていない。今後の努力に期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	理念を基本とし、状態に合わせ、地域行事への参加、地域の方々との関りを積極的に持つようにする。	開所時に地域の方が見学に訪れている。雪かきではお世話になった。地域行事(みこし祭り)に参加し散歩時に挨拶を交わしている。事業所の存在を知ってもらいたいと管理者は思っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症相談拠点研修に参加し、認知症相談窓口であることをお伝えし、面会など、来所された方々に、説明させていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の時に施設行事を行い、見学、参加もしていただいています。その後、感想、意見をいただき次回にいかしています。	系列の事業所と合同で家族や行政が出席し、定期的開催されており、事業所の状況や日常の行事等の報告を行い、出席者と意見交換がされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の窓口に行き、担当者と入居状況の報告、相談などおこなっています。	相談事等がある時には管理者が出向き、報告等を含めて連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、身体拘束廃止を理解し取り組んでいます。	玄関は開設時より開錠されている。ふらっと外に出たい人には同行している。月に1回の会議の中で身体拘束に関する内部研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	声掛け、態度など、気づいたときには、その都度対応し、ミーティングを行い、注意を防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、学ぶ機会を持つようになっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所などの際、ご家族に説明し、ご理解していただき契約書に捺印、交付させていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時など、気軽に話しができるよう心掛け、関連施設との連携を密にし情報共有できるようにしています。	本人からは日常的に声をかけ聞いている。家族からは面会時に話しやすい雰囲気を作り聞くよう心がけている。家に帰りたい・手伝いを私はやらない等意見が出ており、思いを尊重している。ホワイトボードを用意して文字で知らせる人もいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングを定期的(毎水曜日)に行い、意見交換の時間を設けています。	職員会議や申し送り時に全員の意見や考えを聞き、他に個別でも聞くことがあり、管理者が運営者に繋げる等で反映できることは反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には、そのように努力していただいています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者には、そのように努力していただいています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修やグループホーム大会に参加し交流の機会をもつよう努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する際、アセスメントをし、ADLを気をつけ観察しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	困ったことに対し不安なことを理解するよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントを良くとり、必要なサービスを理解するようにします。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が、意欲的に何か手伝えることがあるか聞いてくれています。できることは、していただくようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人が安心できるよう支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めていますが、家族、知人の面会は少ないです。	体操を毎日行っている。利用者ひとり一人の力を発揮するところまでには至っていない。利用者から「何かできることはないんかい」と声が出ている。音楽療法やアニマルセラピーの支援時には楽しんでいる。	利用者から貴重な声が出ているので、各人のできることのアセスメントを重ねて、力を発揮できる場面作りや張り合いに繋げる支援をしてほしい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の会話に耳を傾け、問題行動や会話があったときはすぐに対応し、楽しく生活できるように心掛けています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談や、支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時や面会時に、ご家族様よりお話を伺い、できるだけご希望に答えられるように努め、困難な場合は検討し近づけるよう努力します。	利用者は、先ず施設に慣れていただく事を基本として、日常の会話等から意向を推察している。家族からは、面会時に話しかけるようにして希望等を確認し、検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス利用の経過等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、バイタルチェックし健康状態を記録し情報を共有します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に行われる担当者会議、往診時、受診時など話し合いの場を持ち、介護計画作成に生かします。	ケアマネジャーが毎月モニタリングを実施している。定期的な介護計画の見直しは認定期間毎にアセスメント・サービス担当者会議と共に行われている。	毎月実施しているモニタリングを基に介護計画の見直しは3ヵ月毎に行う等、現状に即した計画となるようお願いしたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録用紙の記載、業務日誌の記録を行って情報を共有しています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の状況の変化があった場合、支援方法の検討を行います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、民生委員、老人会、地域の方々などと、話し合いの機会をもち、必要なときにはご協力をお願いしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	日常的な定期的診察、体調の変化時に緊急の受診、ご利用者様又は、ご家族様のご希望時にはかかりつけ医への受診を行っています。	入居時に選択できることを説明しているが、入居前から協力医にかかっていた人がほとんどで、全員が協力医に継続しており、月1回の往診がある。訪問歯科は必要時に受診できる体制がある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	敷地内の医療機関の看護師への相談をし、必要な場合は、すぐに受診につなげていきます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	敷地内の医療機関との連携をおこない、医師からの入退院時の状態説明の時には、施設職員も同席させていただき今後の方針など話し合いを行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期訪問診察時や、体調の変化が見られた場合は、受診し家族へ医師からの状態説明が必要なときは家族へ連絡させていただき話し合いの機会を持つようにしています。	契約書に看取りの指針があり、段階的に説明していく方向である。体調が悪くなった時には協力医の判断により入院になるが、現時点ではまだその段階の利用者はいないので家族には説明していない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	敷地内の医療機関への、報告、連絡、相談を徹底することで、急変や事故対応時に備え、対応しています。隣接する医療機関での研修に参加します。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設での防災訓練を実施し消防署、地域の方々にご協力をお願いしています。関連施設での防災訓練にも参加しています。	28年の11月に消防署立会いの下、総合訓練を実施した。実施の際には近隣に訓練があることや参加を促す等の情報提供を行った。備蓄として排泄用品の用意がある。	法的な訓練の他に事業所独自の訓練を実施し、非常時に備え利用者や職員が避難技術を身に付けられるようにしてほしい。食料品の備蓄の用意もお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の研修会を行い、職員全員が出席し、言葉掛け、態度に注意しています。	内部研修で習得した内容を日頃のケアで活かし、管理者が気付いた事柄は職員同士で注意し合っている。食事時の誤嚥や入浴等安全を意識した支援が大切と考えている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	支援をしていますが、認知症が進んでいる方が多く自己決定できないかたも多いです。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員で話し合いをし、希望にそった支援ができるよう心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節感のある、清潔な衣服を選択できるように支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	認知症がすすんで、できない方が多いですが、季節感のある食事を心掛けています。	系列病院の管理栄養士がたてた献立で食材は配達を利用して調理担当職員が作り、職員も一緒に食べている。10時と3時にはヨーグルトやプリンを提供し、庭でおやつを楽しむこともある。	利用者に食事の内容が分かるように献立を掲示して情報提供をしてほしい。飲み物のメニューを作る等で好みの物を選択できる機会を作ってほしい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	敷地内の医療機関からのサマリーの情報を参考にし、管理栄養士にも相談させてもらっています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの用意をし、声掛けや、歯磨きの介助をし、夕食後は義歯洗浄を行います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時のトイレ誘導を行っています。日常生活の中での行動、様子で排泄を理解し随時の介助を行います。	チェック表を作成し、本人の状況に合わせ申し送り共有して快適な排泄支援に繋げている。昼間はトイレ誘導し夜間はおむつに変える人や自室にポータブルトイレを置いている人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便の確認を行っています。毎日乳製品の摂取に心がけ、運動も取り入れています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴介助が必要な為、予定をたてさせていただきます。	個浴と機械浴の設備があるが、機械浴のみを使用している。週に2回を基本に入浴してもらっている。入浴の順番の希望がある人には工夫している。足浴支援もしている。	利用者の状況に合わせて個浴で入浴できる人には個浴を使用して馴染みの支援に繋げてほしい。また、曜日を設定せずに利用者の希望やタイミングでの支援も検討してほしい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣により、食休をする方、ゆっくりとテレビ、音楽を聴かれるなど個々に対応しています。休まれる時間も個々に対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の薬剤情報を確認し、状態の変化の気づくように努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯のお手伝いをさせていただいたり、小鳥のえさやり、折り紙、ぬり絵など、選んで行っていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の身体状況が同じではないので外出も難しくなっていますが年に数回は外出行事を予定し行いたいと思います。	日常的に散歩や庭でお茶を飲む等で陽や風にあたる機会がある。季節の花見に出かけている。併設の事業所で開催されるフルーツコンサート等のお楽しみ会に出向いたり、利用していたデイサービスを訪問している人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族が管理しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	必要な場合は、職員が対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間の整理、整頓に努めています。音楽、テレビの音量に注意しています。季節感を感じられる飾り付けに心がけています。	テーブルが分かれており、野菜の下ごしらえを手伝っている。2ユニットの利用者が寛いでいる。トイレの前には衝立をおきプライバシーに配慮している。利用者の手作り作品が掲示されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外にも椅子、ソファを用意し、いつでも過ごせるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使いなれた物などは、持ち込んでいただき、生活しやすいように家族と相談しながら、ベッドの配置を考えます。	居室は洗面台が設置され、椅子やテレビ、衣料品が置かれている。ラジオや文庫本等趣味の物や髭剃り等の日用品が整理されている。排泄用品が目に入らないように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ、適した居室の検討します。家具などの配置に注意し、安全に努めます。		